



裏磐梯だより

No. 84

2017年5月



▲新緑の弁天沼

裏磐梯にも、遅い春がやってきました。これから初夏に向かって、たくさんの生きものが動き出し、花が咲き、小鳥たちの恋の季節になります。「たのしみは 朝起き出でて昨日まで 無かりし花の咲ける見るとき」という日が毎日続きます。

さて、写真は「弁天沼」です。青がとてもきれいな、そして神秘的な沼です。東山魁夷の作品「ひがしやまかい緑響く」は、静かな水面に白馬が映り、とても静かな感じの作品です。ロケ地は長野県ですが、弁天沼にたたずんでいると、白馬が現われてくるような錯覚に陥ります。

弁天沼は、七福神の中の紅一点、弁天様（弁財天）から、名前が付けられたのではないかと思われませんが、弁天様はヒンドゥー教の女神が仏教に取り込まれた呼び名で、古代インドの「水の神」がルーツです。まさに、神秘的な弁天沼の水の色と水量の豊かさは、水の神にふさわしい沼といえるでしょう。まわりの山の緑は、明るいうす緑色、やや濃い緑色、ベルベットのような深くて濃い緑色……。緑にこれほどの種類があったかと思うほど、それぞれが微妙に違う、まさに「山、笑う」です。

裏磐梯は「咲く花の薫うがごとく 今盛りなり」という季節です。ぜひお出でください。